

全共斗のファシヨ的暴力行為を糾弾する！

なんら全学生を代表する資格のない、一握りの政治セクトの寄せあつめにすぎない、全共斗をな
る集団は、不当にも、われわれの、講義をうけ、学問・研究する権利をはじめとして、学園内
における諸々の民主的権利（表現・集会・言論・サークル活動等）を、封鎖という暴力行為によつて
奪い去っている。

全共斗は、二月十七日、工部自治会と大学側との会見の会場に、なぐりこみをかけ、工部学友に
多くの負傷者を出させたのをはじめ、最近では、五月十五日工部文学部学友に対して、残忍な政治
テロを加え、三名の学友に重傷を負わせた。

彼らは一連の暴力行為を反省し責任をとろうとしないばかりか、逆にひらきなあって「革命的暴
力を加えたまでだ」等、公言してはばからない。自己に反対する者に対しては暴力を加えてもかま
わないという論理はいかにして合理化されるのであろうか！ゲバ棒とヘルメットによつてしか支
えりえない論理（たぐじ）に従がわない者に対しては見さかいなくテロを加える全共斗諸君のフ
ァシヨ的思想でも、一体市大の何を民主化しようとするのか、我々は大きな疑問を抱かざる
をえない。

学園が彼らの暴力支配の下におかれ、今後このような暴行が放置されたたびに行なわれる（その
可能性は大きい）ならば、権力介入の絶好の口実をあたえるものとなる。彼らの行為はまさに大学
の自治を内部から破壊するものである。

我々は彼等の暴力を断じて許すことはできない。我々は彼ら全共斗暴力集団が、我々の諸権利を
暴力的に侵害するなら、断固として我々の権利を擁護するために、正当防衛権を行使し必要な手段
をこつじろ権利を保留することを宣言する。

我々は、学園の真の民主化は徹底的な民主的な討議が保障されてこそ、行いうる、と考えるし、
今、大学の自治に対してかけられている反動勢力の攻撃（大学立法等）に対して、全学が一致して
起ちあがることが要請されている現在、全大学人の団結をさまたげ分裂させている「封鎖」はきわ
めて犯罪的だと言わざるを得ない。

封鎖という暴力による学園の制圧に対して、怒りをもって糾弾し、ここにあらためて封鎖の学生
自身による自主解除の権利を保留していることを明記する。

一曰も早く学園民主化を徹底しておしすすめるために、又、反動勢力の大学の自治破壊攻撃に対
して、大学の自治の拡大強化、大学を民主主義のとりでにするためには内部からの自治破壊を糾弾
し、彼らの暴力を学園から追放することが急務であることをここに訴える。

一九六九年 六月 十一日 大阪市立大学 文学部 工部哲学科学生・工部哲学科 学生

文学研究科 哲学専攻 院生